

福田前内閣官房長官のご視察

平成16年11月10日（水）に福田康夫前内閣官房長官、堀内光男前自由民主党総務会長、小野寺五典外務大臣政務官、および高木勇樹農林漁業金融公庫総裁が動物衛生研究所を視察された。今回はつくばリサーチギャラリー、中央農業総合研究所、農業工学研究所、農業生物資源研究所等への農林研究団地の視察の一環として、動物衛生研究所を訪問されたものである。

随行者は佐藤農林漁業金融公庫経営改革室課長、森田堀内前自民党総務会長秘書、宮崎農林水産技術会議事務局研究総務官、大同農林水産技術会議事務局技術情報室長であった。対応者は清水所長、谷口企画調整部長、齋藤総務部長、吉原総合研究防疫官、志村疫学研究部長、犬丸免疫研究部長、成田生産病研究部長、廣田安全性研究部長、品川プリオン病研究センター長、福所生物学的製剤センター長、および八木研究企画科長であった。さらに、高病原性鳥インフルエンザ研究については、久保疫学研究部病性鑑定室長、塚本感染症研究部病原ウイルス研究室長が、またBSE研究については、横山プリオン病研究センター病原・感染研究チーム長、岡田病態解明研究チーム長が対応した。

今回は限られた時間のなかで動物衛生高度研究施設をご視察頂いた。議員の到着後会議室において、動物衛生研究所を代表し清水所長が歓迎挨拶を行った後、動物衛生研究所の沿革、研究、人員構成について概要を紹介した。次いで山口部長が、高病原性鳥インフルエンザ研究の概要についてその発生から、現在までに至る経過について説明した。これに対し議員からは、鳥インフルエンザの防疫とワクチンの使用についての質問がなされた。その後、品川センター長がプリオン病研究センターの研究概要について説明した。議員からはBSE診断法や異常プリオン蛋白質摂取量と発病との関係についての質問があった。その後、ロビーに仮設展示された機器を用いて、各研究室長・チーム長が

らBSE発病牛の病理組織標本の説明や、ゲル内沈降反応等による高病原性鳥インフルエンザの診断手法について説明がなされた。最後に監視室において監視モニター越しではあったが、管理区域内で飼育されているプリオン感染牛を観察された。

福田前長官をはじめ訪問された方々も、BSE発病牛の組織標本を観察されるなど実際の標本や検体をご覧になり、強くご関心を持たれたご様子であった。

最後に、当日直接対応した関係者をはじめ、議員の訪問準備のため職員の皆様に多大な協力を頂いた。この場をお借りして感謝申し上げます。

（研究企画科長）



動物衛生研究所の概要説明をお受けになる議員